

献 辞

稲田実次先生は、2003年3月末をもって本学を退職されました。先生の長年にわたるご貢献に対し、感謝を込めて本号を先生の退職記念号としてお贈りいたします。

稲田先生は、1964年同志社大学大学院商学研究科を卒業後、同年4月本学の前身である広島商科大学に赴任し、広島商科大学、広島修道大学と一貫して本学の教育・指導・運営に当たってこられました。その間、商学部長をはじめ、大学院商学研究科長、学生部長、就職部長などの要職を歴任され、本学の発展に多大な貢献をされました。そのご尽力には、心から敬服申し上げます。

先生の専門は「国際貿易論」であり、貿易の立場からアジア研究を深めてこられました。先生のアジア研究は、フィリピン、タイ、中国と多岐にわたりますが、その研究の功績から、1994年から1997年にかけて中国・吉林大学の客員教授を兼任されるとともに、1992年には中国大連・現代企業家養成センターから名誉教授の称号も贈られています。先生はアジア研究の動機を最終講義『アジア研究の視点』のなかで「厳しい貧困の現実」にあったと述べられておられます。先生のお心の根底には「博愛」という言葉があったと推測しますが、誠実で温かいお人柄が窺われます。また、先生は、日本貿易学会やアジア市場経済学会などの理事の要職も努められ、社会活動にも積極的な役割を果たしておられます。

先生の温厚なお人柄は、誰しも認めるところであります。特に私にとって、出身大学を同じくする大先輩ということもあり、赴任以来公私

にわたりことのほか暖かいご指導を賜ったと感謝しております。大学は今、大きな転換期にあります。先生のお言葉と足跡を心に刻みながら、私たち学部教職員一同協力して大学・学部の運営・発展に尽くしていきたいと考えております。

どうかご健康に十分留意され、今後とも一層のご活躍を心から期待するとともに、あわせて私たちに対する更なるご指導ご鞭撻を賜ることをお願い申し上げて、献辞とさせていただきます。

2003年10月15日

広島修道大学商学部長 近藤和明